

**製品名: Dnmt3b ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10092**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	96kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DNMT3B
別名	DNMT3B; DNA (cytosine-5)-methyltransferase 3B; Dnmt3b; DNA methyltransferase HsalllB; DNA MTase HsalllB; M.HsalllB
遺伝子 ID	1789.0
SwissProt ID	Q9UBC3
免疫原	抗血清はヒト DNMT3B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

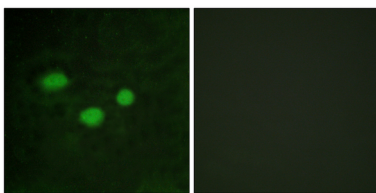
CpG メチル化は、胚発生、インプリンティング、および X 染色体不活性化に重要なエピジェネティック修飾です。マウスを用いた研

究では、DNA メチル化が哺乳類の発生に必須であることが実証されています。この遺伝子は DNA メチルトランスフェラーゼをコードしており、これは維持メチル化ではなく、de novo メチル化に機能すると考えられています。このタンパク質は主に核に局在し、その発現は発生段階に応じて制御されます。この遺伝子の変異は、免疫不全・セントロメア不安定性・顔面異常 (ICF) 症候群を引き起こします。選択的スプライシングによって生じる 8 つの転写バリエーションが報告されています。バリエーション 4 および 5 の全長配列は未だ決定されていません。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]、触媒活性: S-アデノシル-L-メチオニン + DNA = S-アデノシル-L-ホモシステイン + 5-メチルシトシンを含む DNA。、疾患: DNMT3B の欠陥は、免疫不全・セントロメア不安定性・顔面異常症候群 (ICF) [MIM:242860]の原因です。ICF は、さまざまな免疫不全、軽度の顔面異常、および 1 番、9 番、16 番染色体を含むセントロメアヘテロクロマチン不安定性を特徴とする、まれな常染色体劣性疾患です。ICF は、生化学的には、ヘテロクロマチンの一部の領域における CpG 部位の低メチル化を特徴とします。、機能: ゲノム全体の de novo メチル化に必要であり、発生に不可欠です。DNA メチル化は、ヒストンのメチル化と協調して行われます。アイソフォーム 4 および 5 は、保存された 2 つのメチルトランスフェラーゼモチーフが削除されているため、おそらく機能しないと考えられます。、オンライン情報:DNMT3B 変異 db,PTM:SUMO 化されています。、類似性:C5 メチルトランスフェラーゼファミリーに属します。、類似性:1 つの ADD 型ジンクフィンガーを含みます。、類似性:1 つの PWWP ドメインを含みます。、サブユニット:SUV39H1 と相互作用します (類似性による)。SETDB1、UBL1、UBE2I9 と相互作用します。DNMT1 および DNMT3A と相互作用します。PRC2/EED-EZH2 複合体と相互作用します。、組織特異性:普遍的; 胎児の肝臓、心臓、腎臓、胎盤で高度に発現し、脾臓、結腸、脳、肝臓、小腸、肺、末梢血単核細胞、および骨格筋でも低レベルで発現します。アイソフォーム 1 は脳、骨格筋、PBMC を除くすべての組織で発現し、3 は普遍的に発現し、4 は脳、骨格筋、肺、前立腺を除くすべての組織で発現し、5 は精巣でのみ検出され、脳と前立腺では非常に低いレベルで検出されます。

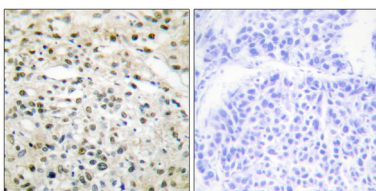
## 研究分野

システインおよびメチオニン代謝;

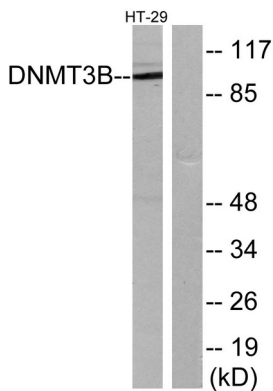
## 画像データ



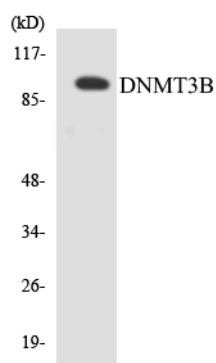
DNMT3B 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



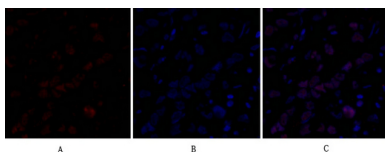
DNMT3B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



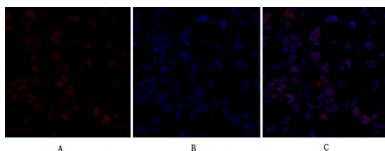
DNMT3B 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



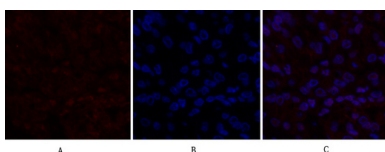
DNMT3B 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



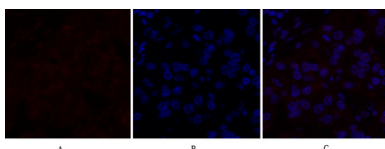
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, Dnmt3b ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



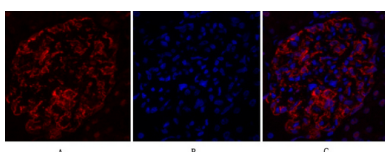
ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, Dnmt3b ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Dnmt3b ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト肝臓組織の免疫蛍光染色。1, Dnmt3b ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Dnmt3b ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。